

様式 32

研究No.
(記載不要)

— —

平成 23 年度配分 研究成果の概要

研究名	美術館の危機管理、大学と美術館の連携				
特別研究費 配分額	文化政策学部長特別研究費 970 千円				
特別研究費 執行額	970 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	芸術文化	准教授	立入 正之	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:国際美術評論彼名 シンポジウムにて			発表日 (発表 予定日)	平成25年11月
	3 その他 発表の方法:本学授業内にて発表 「視覚芸術論」「展示工学」「美術史」 ※他機関研究者招聘による教導授業			発表日 (発表 予定日)	平成24年5月、7月、 9月

注:配分を受けた翌年度の7月末までに提出

研究No. (記載不要)	23—文学—2
-----------------	---------

平成 23 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	美術館の危機管理、大学と美術館の連携				
配分を受けた 特別研究費	学部長特別研究費 970 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	文化政策	芸術文化	准教授	立入 正之	他 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:			号 数	第 号 (頁～ 頁) (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:平成26年3月時点で調査研究 継続中のため、未発表です。 但し「展示工学」「博物館資料論」等の学芸 員課程授業内において、調査研究状況につい て逐次報告しております。 なお、次年度(平成26)着任予定の小針由 紀隆氏と本研究を継続する予定です			発表日	平成 年 月 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

（研究の目的等）

東北関東大震災の被害は美術館や文化財にも及んでいる。液状化による地盤の沈下や展示作品の損傷、天井からの建材の落下などで休館を余儀なくされる施設も多い。国宝や重要文化財の被害も東日本の広範囲にわたっている。美術作品は振動のみならず温湿度の急激な変化(特に夏冬季)でも状態が悪化する。損傷激しく空調機器の作動しない館内では良好な保管は不可能であるため、直ちに安定環境下に安全確実に移動する必要がある。本研究では外部研究者とともに、美術作品避難移動をシミュレートしつつ、各美術館および関係各機関に被災下美術作品の移動を円滑にするための提言をする。

なお、全国美術館会議の災害緊急時復興要員登録者である本研究者が阪神大震災において、震災直後に被災美術館の復興活動を現地でおこなった経験を生かす。また、本研究では美術館における収蔵品の保管保全についてのみ対象とする。

（研究の実施方法等）

東北関東大地震により被災した美術館、文化財の情報収集後、施設の被害状況調査(特に空調設備)、展示・収蔵美術作品の被害状況調査。

美術作品については、修復および建物施設修復完了までの移動一時保管可能場所調査。

美術品輸送、保管倉庫に関する調査、および被災地域外の作品一時保管可能各美術館収蔵庫の状況調査。

上記に基づいた緊急時対処報告書の作成、および美術館と大学の連携と共同調査の構築。

（得られた成果等）

①現在協議会委員をつとめている浜松市博物館(分館等を含む)、磐田市香りの博物館、静岡県立美術館において、予期せぬ被災時の緊急対処法について、学芸担当者等への提言と意見交換をおこなった。

②学芸員課程新カリキュラムの中心科目のひとつ「博物館経営論」の「博物館における危機管理」章、「展示工学」「博物館資料論」等学芸員課程授業において、調査報告をするとともに、対処法を検証した。

③将来的な大学と美術館の美術活動の連携や共同研究に向けて、静岡県内の準備が整いつつある。